

市民タイムス杯少年サッカー新人戦

8強さわやかプレー

第三回市民タイムス杯少年サッカー新人戦は二十日、旭町中グラウンドで、ベスト8に勝ち進んだチビっ子イレブン百六十人余が集まり、市民タイムス杯を



かけた決勝トーナメントを行った。この日の松本地方は、移動性の高気圧に覆われて晴れ上がり、絶好のサッカー日和となった。

前半終了間際、絶妙なアシストを受け筑摩が先取点(決勝戦)

試合はPK戦が2試合もあり大きなセツケンをつけた優勝候補の筑摩が2-1で三郷を破り、栄冠を手にした。新チームにとっては、初の公式戦で、自分の背中より大きなセツケンをつけた補欠選手の健闘ぶり、試合は初めてという。ニューフェイスの活躍が場内を沸かせた。

優勝監督に聞く



心機一転、実る

「子どもたちは本当によくやってくれた。優勝することができてうれしです。」少年サッカー新人戦で、筑摩を初優勝に導く名監督ぶりを見せた。県ヶ丘高時代はサッカー

一部。ことしの全国高校サッカー選手権の県大会決勝で、母校が上田に1

一番苦しかったのは優勝の松本北戦。PK戦の末、ようやく勝った。

「2で惜敗し、「いけると思ったんですがね」と残念がる。

連合会のなかでも、しにせの筑摩も昨年の第二回大会は一回戦で敗退。心機一転出直したのが、冬門復活につながった。

「子どもたちの育成指導を主な目標に置く。小学時代だけでなく、社会人になってからも続けられるサッカーを。」

松本市深志三二八二二、村田義明、42歳

決勝トーナメント結果

旭町 2	0-1	筑摩野
筑摩 4	1-0	松島
三郷 0	0-0	塩尻西
松本北 2	1-1	一開智
三郷 6	1-1	旭町
筑摩 3	1-0	松本北
旭町 2	0-1	筑摩野
筑摩 4	3-0	松島
三郷 0	0-0	塩尻西
松本北 2	1-1	一開智
三郷 6	5-0	旭町
筑摩 3	1-0	松本北



初優勝を果たし、市民タイムス杯と賞状を受ける筑摩

選抜FC 候補決まる

松本市サッカースポーツ少年団連合会指導部会は、第三回市民タイムス杯少年サッカー新人戦を参考にして次の選抜FC候補を決めた。

高山茂樹、古井利幸(松島) 小林洋介、藤井健太郎(松島)

長瀬勝(松本北)、久保田剛、小山宗範、岡野朋之(筑摩) 小池正信、高橋孝幸(筑摩) 立石越史、小林亨、伊藤英治(筑摩野) 芦沢秀元、風間信哉、宮川嗣生(旭町) 山口剛史、上塚輔(菅野) 鎌崎晃、工藤和正(清水) 伊藤岳彦、青木貴史(開智) 中村英敏、石川伸(松本東) 北沢和紀、大久保淳一(鳥立) 浜西謙平、有坂和彦(明善) 小畑道治(念沢) 本庄俊則、古畑徹(山形)



ラインわきで声援を送る父兄ら



坂田 勝彦君 柳沢 代樹君

1点を争う好ゲームを繰り広げた決勝戦。この試合で全得点をあげたセントリーワード・柳沢代樹君(二二)は「筑摩小五年は、「やったー」とにかくうれしい」と少年らしいさわやかな笑顔。前半終了間際、坂田勝彦君(二二)は「中山小五年の左からのヘディングパスを受け、ゴール正面に先取点をたたき込んだ。アシストの坂田君は「得意のパターンで、パスしたボールが得点に結びついて本当によかった」と大喜びだった。二人はふだんから大の仲よし、試合運びの呼吸もピッタリ。大人顔負けのハッスルプレーを披露し、優勝に大きく貢献した。二人の共通の夢は、県大会を勝ち抜いて全国大会、出場すること。しっかりとリーダーシップをとって、先輩に負けないうチームをつくっていきたい」と元氣いっぱいだった。

決勝

両チーム譲らず一進一退の試合展開。前、後半に1点ずつ得点した筑摩が、三郷の猛追をふり切り、快勝した。

前半終了30秒前にクリアミス、ボールを柳沢がほぼ正面からけり込み先制。後半にはセンターハーフの久保田のパスを柳沢がけり込み2-0とした。試合終了直前に三郷が1点をかえしたが、及ばなかった。

両チームとも前半二十分ずつ走り切り、空中戦もスピーディー。松本平の少年サッカーの頂点を決めるのにふさわしい試合内容だった。